

$$157. \quad y \frac{dy}{dx} = A(x)y + B(x) = \text{就テ}$$

福原満洲雄 (北大)

1. $A(x), B(x)$ が $x \rightarrow +\infty$ ノ時

$$(1) \quad \begin{cases} A(x) \sim a_{-m}x^m + a_{-m+1}x^{m-1} + \dots \\ B(x) \sim b_{-n}x^n + b_{-n+1}x^{n-1} + \dots \end{cases}$$

ナル形 = 近似的 = 展開サレ、 $2m+1 < n$ 且ツ n ハ奇數 (n が偶數ナラバ x ヲ x^2 デ置キ換ヘレバヨイ) ナラバ

$$(a) \quad y \frac{dy}{dx} = A(x)y + B(x)$$

ヲ形式的 = 満足スルヤウ =

$$(2) \quad y \sim x^p \left\{ \alpha_0 + \dots + \frac{\alpha_j}{x^j} + \dots \right\}$$

ヲキメルコトが出来ル。但シ

$$p = \frac{n+1}{2}, \quad \alpha_0 = \pm \sqrt{\frac{2b_{-n}}{n+1}}$$

デ $\alpha_1, \dots, \alpha_n$ ハ常數, α_{n+1}, \dots ハ $p \log x + C$ (p ハ一般 = 0 デナイ キマツタ常數, C ハ任意常數) ノ整多項式デアアル。ソノヤウナ $\alpha_1, \dots, \alpha_n, \alpha_{n+1}, \dots$ ノキメ方ハ唯一通りデアアル。コレハ單 = 形式的ノ形算 = 依テ得ラレル事柄 = 過ギナイ。

I. (2) ヲ近似展開トスル (a) ノ解ハ唯一ツ存在スル。逆 = (a) ノ解ハイツレモ (2) ナル近似展開ヲ許ス。

II. $x_0 \leq x < +\infty$ デ分岐点ヲ持ツ (即チ $y=0$ トナル) (a) ノ解ガ $x=x_0$ デ取ル値ヲ y_0 トシタトキ $y_0/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ナル点ノ集合ハ両端ガ ∞ マデ伸ビテキルーツノ曲線 L トナリ、 x_0 ガ $+\infty$ ニ近ヅクニ從ツテ L ハ $\pm \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ ヲ結ブ線分ノ垂直二等分線ニ限りナク近ヅク。

III. L = 依テ平面ガニツノ領域ニ分レル、其ノ中デ $\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ ヲ含ム方ヲ D_1 , $-\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ ヲ含ム方ヲ D_2 トスルバ、 $y(x_0)/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ガ D_1 ニ屬スルヤウナ (a) ノ解ノ近似展開ハ $\alpha_0 = \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナリ、 $y(x_0)/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ガ D_2 ニ屬スルヤウナ (a) ノ解ノ近似展開ハ $\alpha_0 = -\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナル。

IV. $y(x_0)/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ガ L ノ上ニアルヤウナ (a) ノ解ハ $x_0 \leq x < +\infty$ デ分岐点 x_0 ヲ持ツカラ x_0 カラ先ハ y ノ取ル値ガニツアル、ソノ中一方ノ近似展開ハ $\alpha_0 = \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナリ、他方ノ近似展開ハ $\alpha_0 = -\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナル。

以上ハ數理物理学會ノ年會ヲ報告シタ所デ、其ノ際此等ノ結果ハ解ノ存在定理カラ導カレルコトモ注意シタ、更ニ進ンデ

V. 近似展開 (2) ガ含ム任意常數 C ノ取ル値ハ (a) ノ解 $y(x)$ ガ x_0 デ取ル値 y_0 = 依テキマルカラ、 C ハ x_0, y_0

ノ函数ト見做セル、其ノ時

$$|C| < K |x_0|^{\frac{n+1}{2}} |y_0|$$

が成立スル、但シ K ハ x_0, y_0 = 関係シナイ 常數デアアル。

VI. 近似展開 (1) が

$$\Omega_0 < \arg x < \Omega_0', \quad x \rightarrow \infty$$

が成立スルナラバ 近似展開 (2) も同ジ所が成立スル。

等々、皆同様ノ方法が証明サレル。

2. 併シ問題ハ以上が終ツタワケデハナイ、 ∇ モモット 詳シクナルデアラウ。 $A(x), B(x)$ が x ヲ極トスルトキ 級数 (2) ノ 収斂性モ問題ニナルデアラウ。一般ニ正確ニ解ケ ナイノデアアルカラ、近似的ニ解クノデアリ、コリ精密ナ結果ヲ要求スレバスル程 問題ハ複雑多岐ニ亘リ、何処マデ行ツ テモコレが完全ト言ヘル筈ノモノデハナイが、目標ヲ何処ヘ 置クカラハツキリキメレバ、ソレニ應ジテ其ノ目的ニハドレ がケ調べレバ十分デアアルカガワカッテ來ル。目標ヲ定メナケ レバ研究ノ方針ハ立タナイ、ソコが差當ツテ現在ノ目標ヲ次ニ 述ベル *Malmquist* ノ 定理ノ擴張ニ置カウト思フ。

『 $R(x, y)$ が $x = \infty$ デ 正則ナ 函数ヲ係数トスル y ノ 有理函数デアアル時

$$(A) \quad \frac{dy}{dx} = R(x, y)$$

が $x = \infty$ デ 一價超越解ヲ持テバ (A) ハ *Riccati* ノ方

程式デアール』

此ノ定理ニ於ケル一價トイフ假定ヲ除カウトイフノが目的デアール、ソノ結果結論ニ変更ヲ要スルノハ當然デアラウ、ソコテ私ノ予想ヲ先ニ述ベテ置カウ。

『 $R(x, y)$ が $x = \infty$ デ正則ナ函数ヲ係数トスル y ノ有理函数デ (A) が *Riccati* ノ方程式デナケレバ、 $x = \infty$ ノ近傍デ (∞ ヲ除ク) 分岐点ヲ持タナイ (A) ノ解ニ對シテ $x = \infty$ ハ正則点カ、代數的特異点カ、通常超越点 (*point transcendant ordinaire*) デアール』

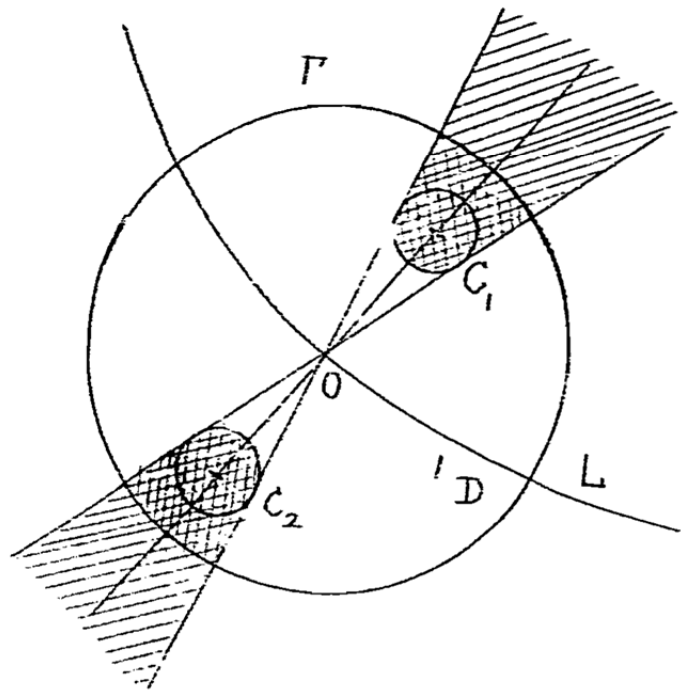
通常超越点トハドンナ路ニ沿ツテ近ヅイテモ函数ノ取ル値ガ一定値ニ收斂スルヤウナ超越特異点ヲイフノデ、例ヘバ $\log x$ ノ $x = 0, \infty$ ノ如キガソレデアール、サウデナイ超越特異点ヲ眞性超越点 (*point transcendant essentiel*) トイフ。

前述ノ *Malmquist* ノ定理ヲ基礎トシテ彼ハ一階常微分方程式ニ關スル *Painlevé* ノ問題ニ見事ニ解決ヲ與ヘタガ、ソノ定理ノ中ニ一價トイフ假定ガアルヌメニ完全ニ解決ニ達シテ居ルトハ思ハレナイ、若シ予想定理ガ正シイナラバ *Malmquist* ノ結果ヨリ先ニ進ムコトガ出來ル。 *Painlevé* ノ問題ニ關シテハ後日マタ触レル機會ニアルデセウカラ、再ビ微分方程式 (a) ニ戻ルコトニシヨウ。

3. 微分方程式 (a) の場合 $= 2m+1 < n$ ナラバ予想定理ハ正シイ。結論ヲ先ニ述ベレバ、「 $x=\infty$ ノ近傍デ分岐点ヲ持タナイ解ハ $x=\infty$ ヲ極トシテ持ツ」此ノ場合注意スルマデモナク、(1)ハ近似展開デナク $A(x), B(x)$ ノ Laurent 級数デアル、以下証明ノ順序ヲザツト述ベル。

$$(i) \pm \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}} \text{ヲ}$$

中心トシ半径 δ ノ円 C_1, C_2 ヲ描キ、 C_1, C_2 ト共通ナ点ヲ持タナイ線分デ原点 O ト結ベル点ノ集合 (図ニ於テ斜線ヲ施シテナイ部分)ヲ D トスル。



$z_0/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ヲ D ノ中ニ取り、 $x(z_0) = x_0$ ヲ満足スル

$$\frac{dx}{dz} = \frac{z}{A(x)z + B(x)}$$

ノ解ヲ $z_0, 0$ ヲ結ベ線分ニ沿ツテ追跡スル。円 C_1, C_2 ノ半径 δ ハ幾ラ小さクテモヨイガ、ソレニ對シテ $|x_0|$ ヲ十分ニ大キク取レバ、線分 $\overline{Oz_0}$ ノ上デ $|x(z)| > R$ (R ハ十分ニ大キク與ヘラレタ数)ヲ満足スル。トイフコトハ x_0 ガ十分ニ大キイトキ $z(x_0)/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ガ D ニ属スルナラバ

其ノ解ハ $|x| > R$ デ分岐点ヲ持ツトイフコトニナル。

(ii) 0 ヲ中心トシ, $\sqrt{\left|\frac{2b-n}{n+1}\right|}$ ヨリ大キナ半径 M ノ円 Γ ヲ描キ其ノ外部 = $y_0/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ヲ取り, $y(x_0) = y_0$ ヲ満足スル (a) ノ解ヲ, $x=0$ ヲ中心トシ x_0 ヲ過ル円周 = 沿ツテ追跡スル (言ヒ換ヘルナラバ $x_0 = r_0 e^{i\theta_0}$, $x = r e^{i\theta}$ ト表ハシタトキ $r = r_0$ ト置キ θ ガケテ変数ト考ヘルノデアアル) サウスレバ $|\theta - \theta_0| < \mu$ デ

$$|y(x) - y_0| < \sigma |y_0|$$

ナル形ノ不等式が得ラレル。 σ ハ μ, M = 関係スルガ M ヲ大キク取ルコト = 依リ σ ハ幾ラデモ小サクスルコトが出来ル。故 = $y(x_0)/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ が ~~施シタ~~ 施シタ部分 = アツテモ, 其ノ解ヲ $|x| = r_0$ ナル円周 = 沿ツテ解折接続スレバ

$y(x)/x \cdot \frac{n+1}{2}$ が D ノ中 = 現ハレルマウ = ナル。従ツテ其ノ解ハ $|x| > R$ デ分岐点ヲ持ツ。

(iii) 故 = $|x| > R$ デ分岐点ヲ持タナイ解 = 對シテ $y(x)/x \cdot \frac{n+1}{2}$ ハ圖 = 於テ ~~施シタ~~ 施シタ部分 = ナケレバナラナイ。其ノ解ノ近似展開 (2) が含ム任意常数 C ノ取ル値ハ $\arg x =$ 依テ変ルカモ知レナイガ $\forall =$ 依テ C ノ取ル値ハ有界デアアル。 $\arg x = \theta_0 + 2n\pi$ ノ時, C ノ値ヲ C_n トスレバ $\forall i =$ 依テ $C_n = C_0 + 2n\rho\pi i$ トナル。 $\{C_n\}$ ハ有界デナケレバナラナイカラ $\rho = 0$, 即チ近似級数 (2) ハ $\log x$ ヲ含マナイ。サウスレバ $\forall i =$ 依テ C ノ値ハ方向 = 依テ変ラナイカラ

$f(x)$ は $x = \infty$ で一値となり、 $x = \infty$ が $f(x)$ の極
点アルコトが分る。

尚最後 = 此等ノ結果ヲ証明スルノニモ常ニ解ノ存在定理
が基礎ニナツテアルコトヲ附加ヘテ置ク。